

受付番号： 2010-161

研究課題名：日本における腎細胞癌の予後予測因子に対する研究

研究期間 西暦 2008年1月（倫理委員会承認後）～2016年6月

対象材料

- 病理材料（対象臓器名 腎臓）
生検材料（対象臓器名）
血液材料 遊離細胞 その他（）

上記材料の採取期間 西暦 2008年4月～2013年6月

意義、目的

腎癌の予後はガン細胞の核異型度、壊死の有無で変わることが欧米では知られている。この場合の核異型度は通常 Fuhrman' s nuclear grade を用いることが一般的で、欧米の治療成績を比較するに当たり必須の項目であるが、日本においてはがん取り扱い規約に載っていない分類である。そのため、今回この項目に対しては、泌尿器病理専門の同一病理医（セントラルパソロジスト）による評価を行い、バイアスの少ない正確なデータを収集することとした。

方法

病理スライドに関しては各施設で標本整理が終わったところで、腫瘍部分の未染スライド3枚を、予後調査票と一緒にデータ管理者まで郵送してもらう。当院病理部にてスライドは検査され、病理の結果およびスライドは全てデータ管理者が保管することとする。

問い合わせ・苦情等の窓口

東北大学医学部泌尿器科, 022-717-7278

齋藤英郎、石戸谷滋人、伊藤明宏